

シンポジウム

福島第一原子力発電所事故による 環境放射能汚染の現状と課題

— 今，大気環境から考える放射能汚染 —

東京電力福島第一原子力発電所事故により大量の放射性物質が大気を介して一般環境中に輸送・拡散されました。その大気中に放出された放射性物質の動態を中心に，どのように放出，輸送，拡散され，沈着したのか，それから今日までどのように変化し，現在どのようなになっているのか，そして，将来どのようになるのか，大気中の放射性物質の過去，現在，未来に関する環境中の動態を，これまでの観測や数値モデルを用いて示し，環境回復に向けた課題を市民の皆さんと共有することを目的にこのシンポジウムを開催します。



主催：公益社団法人大気環境学会， 大気環境学会北海道・東北支部

共催：福島大学， 独立行政法人国立環境研究所

後援：福島県，福島市

日時：2014年1月24日（金曜日） 10時から17時まで

場所：こむこむ わいわいホール（福島県福島市早稲町1-1）



連絡先

公益社団法人大気環境学会

シンポジウム実行委員会

実行委員長 福島大学 渡邊 明

TEL:024-548-8203

プログラム



1. 開会挨拶 (10:00)
2. 来賓挨拶
3. シンポジウムの趣旨説明 (10:15)
大気環境学会「放射性物質動態分科会」：鶴田治雄分科会長
4. 第1部：事故直後の放射性物質の大気中での挙動はどこまでわかったか (10:30)
 - 1) 鶴田治雄（東大大気海洋研究所）：観測データからわかったこと
 - 2) 滝川雅之（海洋研究開発機構）：モデルによる放射性物質の大気中濃度の推定，どこまで再現できるか
 - 3) 森野 悠（国立環境研究所）：モデルによる放射性物質の沈着量の推定，どこまで再現できるか
- 昼 食 —
5. 第2部：現状はどうなっているか？ (13:00)
 - 1) 渡邊 明（福島大学）：放射性物質の大気中濃度・降水量などの長期変動
 - 2) 北 和之（茨城大学）：放射性物質の土壌と森林からの再飛散
 - 3) 鈴木規之（国立環境研究所）：多媒体間の移動のモデリング
 - 4) 大原利眞（国立環境研究所）：現状の俯瞰的理解のために
- 休 憩（10分） —
6. 第3部：将来の課題と問題点 (15:00)
 - 1) 浅妻新一郎（日本原子力研究開発機構）：除染に伴う課題と対策
 - 2) 滝上英孝（国立環境研究所）：廃棄物処理に伴う課題と対策
 - 3) 森口祐一（東京大学工学系研究科）：環境回復に向けた総合的な課題
7. 総合討論 (16:20)
8. 閉会挨拶 大気環境学会北海道・東北支部長 (16:50)

